平成 29 年 12 月 16 日

北関東フォーラム

於：シムックス

中斎塾　北関東フォーラム
平成 29 年度 第 10 回

木内信胤先生・木内孝さんとの出会い

今日はフォーラムの開始時間を 1 時間早めさせて戴きました。有難うございます。今日は、中斎塾フォーラム顧問の木内孝さんにとって特別な日でございます。ご自分が創業された会社の一線を退かれ特別顧問に就任されるということで、私もお招きを戴きました。式典に間に合うよう講話時間も短縮し、早めに退出させて戴きます。

木内孝さん、そしてお父様の木内信胤先生について少しお話致します。私が師匠と呼ばせて戴いた方は、木内信胤先生ただ一人です。信胤先生との出会いは、私の叔父から、先生が群馬に講演に行かれるから、参加しなさいと勧められ講演会に行ったのが最初です。私は以前から信胤先生の本を読んでいて、かなり目線の高い論文を書いておられると感じていたので、あまり行きたくないと思っていたのですが、お話を聞くうちにどんどん引き込まれました。そして講演が終わった後、思わず立ち上がって先生の前に行って「弟子にして下さい」 と頼んでいました。そうしましたら、先生の勉強会にお誘いいただいて、それをきっかけに弟子にして戴きました。

よく、師匠が黒と言ったら黒、白と言ったら白と言うような師弟関係がありますが、まさにそういう感覚でした。木内信胤先生が言われたなら、直立不動で「はい」としか言いようがない、圧倒的な人格、圧倒的な迫力がありました。先生の言われたことは必死になってメモを取りましたから、おかげで速記が身に付きました。かなりの分量の先生のお話を速記で書き取りました。とにかく、世の中にはこういう人間がいるのか！　と脳天を叩かれたようなショックを受けました。

信胤先生が生前、ご家族に「群馬に若い友達が出来た」と言って下さっていたと息子の木内孝さんからお聞きして、私をそのように見て下さったのだと感慨もひとしおでした。先生が亡くなられて瞬間的に浮かんだのは、先生の言葉を何とか残したいということでした。先生の語録を纏めたいと思って、貯まっていた資料から言葉を選んで、猪瀬理事長と成川さんと 3 人で中身を練って、『木内信胤語録』を出版させて戴きました。

木内孝さんは大変な行動家で、考えるより先に行動をするようなタイプの方です。若い頃、アメリカを車で横断する旅の途中、崖から落ちて顎の骨が砕けるような大ケガを負って入院をしています。その時、父親の信胤先生から「君は何をしても構わないが、死んじゃいかんぞ」という電報が届いたというエピソードをお持ちです。

木内孝さんとの御縁は、『木内信胤語録』を出版する際、当時アメリカにおられた孝さんに原稿を送り、出版して良いかどうかと伺いました。すると即答で「是非、お願いします」との返事を戴きました。そして自費出版で『木内信胤語録』を出しました。出来上がった『木内信胤語録』を木内孝さんにお渡ししたところ、皇室関係の方や名だたる企業家から返礼の手紙を戴き、そういうお付き合いのある方なのだと改めて思いました。

昨日、青年会議所のＯＢ仲間が集まって忘年会をしたのですが、その中で同世代の方が「青春とは？」と投げかけました。皆さんは如何でしょうか・・・？　私は、心の中で燃え上がっているものがあれば常に青春だと思っています。全身全霊をかけて一心不乱に仕事に没頭する。当然、身体も心が燃え上がっている。そういう時は周りが見ても格好良く、まさに青春真っ盛りとなります。

木内孝さんは、まさにこのタイプの方です。常に燃え上がっていて、とても良い印象を受けます。中斎塾フォーラムの顧問の内では 82 歳と一番お若いのですが、残念ながら今日、引退をされるということで、品川にある開東閣でセレモニーが行われます。開東閣は三菱グループの迎賓館として使われています。数年前にノーベル平和賞を受賞した国連の地球環境問題の研究グループが来日した時に、開東閣でディスカッションをするということで私も参加させて戴いたことを覚えています。

昨日の忘年会の続きで申しますと、認知症の予防として、その日の出来事や約束した事をメモしているという方がおられました。その方は、寝る前に必ずメモを見ているとのことでしたので、「ぜひ朝も見て、もしメモしたことの記憶がなくなっていたなら認知症の兆候だと思って下さい」とお話しました。今は若年性の認知症もありますから、どんな形でもよいから寝る前に約束した事を書き出しておいて、翌朝見る習慣をつけるとよろしいでしょう。そして、もし記憶がないようなら危ないと自戒されるとよいと思います。

木内信胤先生の前では直立不動になったと申しました。やはり人間は、頭の上がらない人物がいるとよろしいですね。それは意識して自分で選ぶものです。そういう人物がいなければ、一所懸命本を読んで、その中から自分の師匠になるものを見つければよいのです。

先ほど道場で棒術とストレッチの練習をしました。参加者のお一人から「最近、塾長は関節がどうだとか、ひらめ筋を使って…と言って色々な動きをするけれど、誰かに教わっているのですか？」と聞かれましたが、特定の人に教わっているのでありません。武道やその類の本を読んだりテレビで見たりして、納得したらその動きを自分で人体実験して確認し、効果を実感できたら人にお話しています。くれぐれも本を読んだ受け売りではなく、実感しなければいけません。

ということで、頭の上がらない人物を持つことをお勧めします。いなければ本や資料の中から自分で選ぶこと。ポイントは自分の身体で味わうことです。

知行合一の旅

先週、私は西郷隆盛が住んだ奄美大島、沖永良部島、そして最後を迎えた鹿児島に行って来ました。来年の大河ドラマで「西郷どん」が放映されるので、その前に確認をしたいと思ったからです。というのは、群馬県も舞台になった一昨年の「花燃ゆ」では、視聴率を上げるためにかなり創作が入っていました。歴史ドラマは氣をつけて見ないと現実にない話をどんどん作ってしまいます。西郷さんのドラマも同じことになると思ったので、現実を壊される前に現地に行って確認したいと思ったわけです。

奄美大島は西郷さんが唯一、心穏やかに暮らした場所です。新妻がいて子供が 2 人生まれて、甘い新婚生活を送りました。「子孫に美田を残さず」と言った西郷さんですが、私は美田を残していると思っていました。しかし色々と資料をあたってみると、美田ではなく家族と住むための普通の土地田畑を買ったのだと分かりました。ですが、まだその土地に行っていませんでしたので、ようやく尋ねることが出来ました。

奄美空港からタクシーでかなり走った龍郷という所に、西郷さんが新婚生活を送った 150 年前の住まいが残っていました。３回くらい修復をしているそうですが、当時のままだとのことでした。子孫の方に話を伺うと、当時の島民の生活は４畳半くらいの部屋に多い時は７人位で寝ていたのだそうです。西郷さんの家は八畳間と六畳間が二間あって、そこに親子で住み、尚且つ敷地が 200 坪弱ありましたから、地元の人から見るととても豪華な家だったようです。他に、田畑が二反ありました。「子孫に美田を残さず」と言うけれども、地元の人から見ると、西郷さんは良い生活をしていると感じただろうなと実感しました。

翌日は奄美大島からフェリーで、徳之島を経て沖永良部島に行きました。ここは西郷さんが今にも死にそうなほどの極限生活を送った所です。記念館には当時を再現した牢獄があって、ガリガリに痩せ細った西郷さんの像があります。

そして西郷隆盛の終焉の地、鹿児島の城山にも行きました。多くの資料に、流れ弾にあ

たった西郷さんが「晋どん、もうここらでよか」と言って別府晋介に介錯して貰ったとありますが、私はどうみても自決だろうと思っています。自分で腹も切らずに介錯だけ頼むわけがないと思っていて、今回細かく確認をして来ました。そうしましたら、城山という山の中で敵の流れ弾が腰から太ももに貫通して歩けなくなり、その場で座って、後ろを見たら別府晋介がいた。そして、「晋どん、もうここらでよか」と自分で腹を切ったところで、別府伸介が介錯をしたのだと分かりました。西郷さんの首は敵方に渡さないように隠したと言われていますが、隠した場所も 4 か所くらい説があって、多分ここが本当だろうと思う所を確認して来ました。やはり実際に現地に行くと、それなりに自分で腑に落ちるものがありました。

自分が手塩にかけて育てた軍人たちが官軍として攻めてくる。西郷隆盛はそれを城山の上から見て、よくぞここまで力量を上げた、自分をここまで追い込めるだけの力が日本の軍隊には備わったのだ…と、感無量で死んでいったわけです。城山には西郷さんが 5 日間こもったという洞窟がありましたが、それは西郷さんを横に寝かせるために兵士が崖を鍬で掘ってスペースをこしらえた洞穴のようなもので、よく見ると鍬のあとが残っていました。その辺りを歩いてみると何かしーんとして、聖地という氣が致しました。

奄美大島で話をお聞きした西郷さんの子孫の方は、ドラマの取材協力を依頼されたそうですが、愛加那の扱いが島妻ではなくアイゴ（妾）と表現していたので耐え難いと言い、取材協力は断ったと言っていました。当時の薩摩藩の藩法では、藩士が島に流されたりした場合は島妻を娶ってもよく、生まれた子供は本土に送り本妻が預かることになっていました。ですから藩法に従って、西郷さんは島で新妻と仲良く暮らすことが出来たわけです。西郷さんの子供は男の子と女の子の 2 人で、息子の菊次郎は本妻に引き取られ、後に京都市の市長になりました。娘さんも引き取られた後に大山巌の弟に嫁ぎました。

菊次郎は父親の西郷隆盛にしたがって西南戦争に加わり、片足を切断します。菊次郎が事の顛末を自分の産みの母である愛加那へ送った手紙が残っています。私は以前にその手紙を資料で読んでいて、手紙の最後に、本妻のいとが愛加那に 10 円を送るという旨が書いてありましたが、奄美大島で実物を見たら手紙の最初に書いてありました。ですから資料は少しずつ違っているようです。その 10 円をどのように使ったのか子孫の方に聞きましたら、はっきりしたことは分からないということでしたが、どうも家の修復費用に使っているようだとのことでした。

このように現地に行けば色々なものが見えてきます。ですから何でも、どんな内容であっても自分が疑問に思ったなら現地に行く、そして関係者に会うことをお勧めします。行

動しないと自分の身体に入って来ません。先ずは疑問に思うこと。世の中、疑問に思わない人が多すぎます。疑問に思ったなら行動して、身体で体験して味わうこと。これが陽明学の知行合一、行いを主体とする学問のベースです。受け売りや聞いただけでは、一知半解になってしまいます。

ほどほど

本日ご紹介するのは、季刊誌「知足」の創刊準備号と創刊号です。10 年前、中斎塾フォーラムは「足るを知る」という考え方を世の中に広めたいということで発足致しました。私は学生時代に石川梅次郎先生から「60 歳になったら社会にお返しする年代に入るのだから、そのつもりでいなさい」と言われたことが頭に沁み込んでいました。58 歳で 30 年間務めたシムックスの代表取締役社長をバトンタッチして、1 年かけて準備をしました。そして 60 歳になると同時に中斎塾フォーラムをスタートさせました。

中斎塾フォーラムの基本哲学は「知足」です。「知足」（足るを知る）といってもピンとこなければ、「ほどほど」と頭に入れて下さい。どうにも困った時、頭が真っ白になった時、夫婦喧嘩をした時もほどほどで収めることです。女性関係も会社関係も同じです。頭にかっと血がのぼって、自分の腹の中を全部ぶつけたら完全な喧嘩になります。「ほどほど」が頭にあれば何とか止まる。そして智恵も湧いてきます。

今年一年を振り返って

では、恒例の質問に参ります。今年一年を振り返って下さい。

私は毎年の暮れに今年はどういう一年だったかを振り返って、その中で自分自身の 10 大ニュースを書き出しています。そうすると、自分自身の人生の転換点としてこういう事があったとか、10 年前と比べてどうだったとか、昨年と比べてこうだったとか、これからこう進もう･･･等々、自分自身の生き様が見えてきます。

「嘘」をキーワードにして人生を振り返ってみるのも良いと思います。自分はいつ頃から嘘をつかなくなったなあ･･･とか、最近また嘘が出始めたな…といった具合に、自分が嘘をついた歴史、嘘をつかなかった歴史も見直しをすると良いでしょう。

では、お聞きします。

○　今年一年、嘘はほとんどつかなかった方

同じ質問を安倍さんにしてみたいですね。もし、「嘘をつかなかった」と言ったら、安倍さんは嘘つきになるだろうと思います。政治家には舌が 2 枚も 3 枚もある方が結構いますから、そういう人は大変でしょう。外交文書には 30 年経つと公開されるものがあります。

公開された文書について書かれたものを読むと、例えば、中曽根さんは非核三原則について、余計な事を言ったなあと反省しているだろうな･･･等と結構おもしろいものがあります。

○　今年一年間、良い日が続いたと思う方

○　今年一年間、有難うと言い有難うと言われることが多かった方

飲食店やお店で代金を払った時は、「有難うございます」と言われますね。教育がしっかりしている店ほど「有難う」に実感がこもっているように感じます。教育が疎かな所は軽い口調で、心がこもっていません。会社の中できちんと教育のシステムを作って、「有難う」という言葉を染み込ませている所はとてもよいと思います。

人さまに何かして差し上げて、相手からとても良い笑顔で「有難う」と言われたなら、それを心にとめて、＜ああ良い日だった＞と思えるように、最近は特に意識をしています。

○　今年一年間、自分なりの健康法を実践した方

健康法は継続実践が必要です。皆さんはご自分の体力年齢は何歳くらいだと思いますか？　膝をのばしたまま前屈して、手の指が床につけば 40 代、握りこぶしがつけば 30 代です。ポイントは息を吐きながらやると身体が柔らかくなります。

私からみると、皆さん同世代の人と比べるとはるかに表情が生き生きして明るいし若い、そして体力もあると思います。外見と中身は連動しているようで、見た目に表情が明るい人、背筋がピンとしている人は内臓も良いようです。皆さんもお帰りになったら鏡を見て、良い表情をしているか、色艶はどうか、確認をして下さい。

○　昨晩寝る時に、とても楽しいことを考えて寝た方

夜寝る時には楽しいことを考えて寝た方がよろしいですね。ワクワクするようなことを考えて寝ると、頭の中の活性化が違います。

○　今年一年間、自分磨きをよくやったと思う方

自分を磨いたなら、同じようなことで自分磨きをしている人と情報交換をするとよろしいでしょう。はっと氣が付くことが沢山あるはずです。

知・仁・荘・礼

本日は衛霊公篇 32～33 です。代表幹事の挨拶で相撲の話がありましたので、相撲で解釈しましょう。少しずつ区切って解説します。

【三二】子曰(しいわ)く、知(ち)之(これ)に及(およ)べども、仁(じん)之(これ)を守(まも)る能(あた)わざれば、之(これ)を得(う)と雖(いえど)も必(かなら)ず之(これ)を失(うしな)う。

孔子が言うには、知識があればその地位につくことはできる。仁徳によって守らなければ、その地位を得たといっても必ずこれを失うものである。

仁とは仁徳、人さまに対する思いやりです。貴乃花は自分の叔父の若乃花に仕込まれ、自分の父親に仕込まれ、相撲道は神の道であると思って一心不乱に修行をし、知識も増やしました。知識と実行が身に付いて、平成の大横綱と呼ばれるところまできたのですから、これは素晴らしかった。その余韻で今の親方の地位につき協会の理事にもなったわけです。但し、仁徳が少し欠けていたのでしょう。ですから早晩これは地位を失うことになるだろうと読めばよろしいでしょう。

安倍さんも「謙虚」という言葉を使っていましたが、選挙後は「言ったことはやります」というキャッチフレーズに変えています。ですから謙虚さがなくなりました。

自分自身が会社を経営している、或いは組織の長に就いているとしたら、果たして自分は仁徳があるかどうか振り返ってみるとよろしいでしょう。ちなみにその確認方法をご紹介すると、歩く時にそっくり返っていませんか？　お辞儀をする時、相手によって態度を変えていませんか？　そういう人は地位を失うぞと、この部分を読めばよろしいでしょう。

知（ち） 之（これ）に及（およ）び、仁（じん） 能（よ）く之（これ）を守（まも）れども、莊（そう） 以（もっ）て之（これ）に涖（のぞ）まざれば、 則（すなわ）ち民（たみけい）敬せず。

知識があって実行も出来た。人さまに対する思いやりもあってこれを守っているけれども、周りの人が自然と頭を下げるような威厳がなければ、民は敬意を払わないものである。

莊とは厳かな貫禄です。伊勢神宮や出雲大社に行くと、自然と頭が下がります。「なにごとのおはしますかは知らねども かたじけなさに涙こぼるる」という境地です。

天皇陛下・皇后陛下があちこちにご訪問に行かれます。被災者の方に膝をついて同じ目線で話をされているお姿が報道されますが、あれは相当お考えになっておられると感じます。ご訪問先では国民が歓迎の拍手で迎え、自然と頭を下げたり涙を流したりしていますね。これが、役人が行ったのならどうでしょう。被災地でおんぶされていた役人が「私のおかげで長靴業界が儲かった」などと言っていましたが、そういう人は必ず落ちますね。天皇陛下・皇后陛下のようにはいかなくても、それを目指して行動していけば、自然と民は尊敬する。そうしないから、国民は尊敬しないのだと読めばよろしいでしょう。

貴乃花はテレビで見ると理事会でそっくり返って座り、腕組みをして、見るからに酷い態度でした。腹の中は違っていても、きちんと親方らしい座り方をすればよいと思います

が、しませんでした。ですから周りが推すわけがない。理事長選挙で負けても仕方がないと思います。

知之に及び、仁能く之を守り、莊以て之に涖めども、之を動かすに礼を以てせざれば、未だ善からざるなり。

知識があり、実行が出来、人さまに対する思いやりもあってこれを守る事ができ、尚且つ威厳が身に付いているけれども、人を動かすにはルールを守らなければ人は心服しないものだ。

礼とはルールです。貴乃花が協会の理事、巡業部長の地位にありながら、理事としての役目を果たさない。協会に対して弓を引くような態度に出ているので、国民はおかしいではないかと感じているわけです。その組織にいるのであればルールを守るべきです。ルールを守らなければ、周りが言うことをきくわけがない。もしやるのであれば協会を離脱して、別の協会を作って第二の相撲団体を立ち上げればよいと思います。

【三三】子曰く、君子は小知せしむべからず。大受せしむべし。小人は大受せしむべからず、小知せしむべし。

孔子が言うには、君子は小さい事は出来ないが、大きな任務は任せられる。小人物には大きな仕事は任せられないが、小さい事は出来る。

これは人物の鑑定法です。

この人は大人物だと思ったなら、小さい仕事をやらせてみればよい。人物であれば、小さい仕事は大概うまくいきません。ただ、大きな仕事をやらせてみれば、大体うまくいくものです。大人物かどうかは、大きな仕事を任せなければ分かりません。

一方、小さい器の人は小さな仕事であればきちんとこなせるけれども、大きな仕事を任せてはいけません。

適材適所という言葉がありますが、私は電気や機械の扱いが出来ません。先日、自宅の風呂に井戸水を入れようと蛇口をひねったら、水が出ない。これは水道が凍ったのだろうと業者に連絡をしようとしましたら、何のことはない、コンセントが抜けていたと息子に言われました。

ということで、自分は大人物なのか小人物なのか考えることも結構ですが、それぞれ得手不得手がありますから、得手の物だけ伸ばせばよい。不得手の物を矯正しようと思っても、なかなか齢をとってからやれるものではありません。

判断基準を持っていますか？

今年１年のテーマは、全て判断基準を言い方を変えて述べています。

１月は「原点を確認しよう」という話を致しました。ハッと氣がつくと、自分自身は何を一年間やってきたか分からない。尚且つ、自分はいつどういう志を立てたのか、いつの間にか忘れてしまっている。ですから時々、自分の青雲の志は何か、原点に戻るとよいでしょう。

４月は、「洞察力」と「予測学」についてお話しました。予測学ということで、来年の干支について少し申します。

来年は「戊戌」（ぼじゅつ・つちのえいぬ）です。「戊」は「茂」ですから、文字からいくと、色々な問題が繁茂してどうにもならないという意味です。色々あった課題は今年解決しません。全部持ち越しになりますから、来年は色々な問題が更に広がって絡まりあって手がつけられなくなる。木でいうと滅茶苦茶に繁茂しているから、綺麗に剪定すべき年です。綺麗に刈り込むことが出来なければ、とんでもない事が再来年起きるでしょう。例えば北朝鮮からミサイルが飛んで来て落ちるとか、酷い自然災害が起きるかもしれません。つまり、来年きちんと剪定が出来るかどうかが、鍵になります。

先週の東京フォーラムで同じ話をしましたら、会員さんの中に名前が「茂」さんという方がおられて、自分の名前なのでもう少し説明をして欲しいと頼まれました。その方は来年 50 才で、今、色々な課題が山積みになっているということでした。ですから、50 才は大きな坂だから、間違えない道をきちんと進みだせばよいとアドバイスしました。大体皆さん自分自身の進むべき道が一所懸命考えれば見えているはずですから、それを着実に一歩ずつ進めてゆければよいでしょう。

その他の月のテーマ、「胆識」も「論語の読み方」・・・すべてひっくるめて、判断基準を自分で持っているかの確認です。判断基準をもう一度磨き直しをするとよいと思います。そして自分の今の判断基準はこれで良いかどうか、信頼できる方とディスカッションしてみることをお勧めします。

新聞の誘導

お時間が少なくなりましたので、時事評論を少し申します。

今朝の日経新聞に、地銀が危機であると大きく出ていました。リーマンショックの時は地銀の倒産確率が１％だったけれども、2017 年は４％台後半に来ているとあります。皆、赤字に向ってまっしぐらな状況で、更に統合再編が必要だという内容の記事です。これは政府のかじ取りが悪いからだと思っています。

新聞を読む時に注意することは、新聞は事実は書かれていない、もしくは世論を誘導しようとする書き方をしています。例を挙げると、12/8 日付けの読売新聞に大学授業料の出世払い制度について書かれた記事があります。「政府の案は低所得者支援という公助の側面が強いのに対し、出世払い制度は自助に軸足を置く」という書き方をしています。これは、用語の使い方が誘導になっています。学生に対する助成金制度は出世払いに軸足を置く「自助」であるという書き方は、良さそうな文言を並べていますが、要は政府が金貸しをしているのです。それを自助努力制度だと間違ったすり込みをさせている。これは中曽根さんの失敗です。

また、12/9 日付けの読売新聞には、経済危機のベネズエラを脱出する避難民が急増している問題について、「避難者殺到、ブラジル困惑」とブラジルに軸足を置いて書いています。なぜ経済危機が起きるのか、これから日本はどうすべきか・・・というところにメディアは論点を置かなければならないのに、ブラジルが困っているというだけの書き方です。ですから新聞を見て、この書き方はどういう裏があるのかと考えなければいけません。

新聞の書き方で私が氣に入らないのは、社説の「〇〇すべきである」という書き方です。社説はその新聞社を代表して書いているのでしょうが、署名がないのもおかしいと思います。「〇〇すべきである」と他人事で上から見て、「あれはダメだ」「こうすべきだ」などと、新聞社は一体なんなのでしょうか。大本営発表の記者クラブの記事だけを書いて良かれとするのは、何事かと思います。「〇〇すべきである」と言ったのなら、自分で行動すべきです。自分で行動して、こういう結果が出たので、我々はこうすべきだと考えるが、皆さんはどう考えますか・・・ともっていくべきです。対岸の火事の批評だけをしているなどとんでもないと思います。

新聞の書き方でもう一つ氣になったのは、税制問題での中間所得者層の定義づけです。政府が言う中間所得者とは、年収 200 万円が一つのボーダーラインでした。しかし税金を上げようとなったら、昨日のテレビで公明党の党首が 800 万までは中間所得者だという言い方をしました。同じ与党の中で、200 万から 800 万までと、開きがありすぎます。明らかに政府はこれから増税路線をどんどん出していくつもりで、メディアはそのお先棒を担い

だ報道をしています。これはおかしい。なぜなら歴史的に見て、国が滅ぶのは増税を進めた結果、経済破綻を起こしています。調べれば皆、増税路線を敷く国は潰れています。なぜ、学者がそういう事を言わないのでしょうか。もう一つ、賄賂が横行する国は経済破綻をしています。賄賂と増税、これが国を潰す。これほど明らかなことはないのに、なぜメディアは政府のお先棒を担ぐのでしょうか。それぞれが営利を目的とするからです。

　したがって今の時代は、教育が大事で、人間の幸せとは何かを考えねばなりません。そして考えたら実行すべきです。来年はそういう年まわりに入っていますから、是非それを進めていきましょう。中斎塾フォーラムの中でお互いに学びを深めて、皆、幸せになっていく方向に向かいましょう。自分自身で正しい道を捕まえていると思う方は、その道を進めばよろしいし、ピンと来ない方は一緒に学び合いながら、その道を深めて参りましょう。

　本日はこれで終了とさせて戴きます。有難うございました。